


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	「よく見て、よく聞いて」 「自分の思いを伝えよう」		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチを自分の手で操作することで、状況が変わることに気付く。</li> <li>・スイッチや絵カード等の支援ツールを使用して、要求を表現する。</li> </ul>		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	4 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快／不快を表情（笑う／泣く）で表出することもあるが、反応が見られない場合もある。</li> <li>・手をトントンと自分の胸を優しく叩く常同行動が見られ、教師が指先（手の平側）に触れると、握ることがある。</li> <li>・苦手な活動や慣れない集団での学習の時には、眠るわけではないが、目を閉じる。</li> </ul>		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	握りスイッチ、iPad Toucher、iPad		
	使用したアプリケーションの名称	ぼいすぶっく		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援 ) <input type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会生活支援 ) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	自分の手を動かす（「握る」という行為をする）ことで、好きな音楽を聞くことができるという経験をする。		
活用の状況と支援	活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活用場面               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動</li> </ul> </li> <li>○行った支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位あるいは、座位保持椅子に座った状態で、右手に握りスイッチをバンドで固定し、クッションで右肘を支えることで、自分で握る動作ができるようにした。</li> <li>・姿勢が整ってから、教師が身体援助と一緒に握る動作をし、音楽が流れるということを3回程度確認した後、本児一人で握る活動を行った。</li> </ul> </li> <li>○児童の様子・変容               <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い時間握るということはまだ難しいが、短い時間は一人で握り、好きな音楽が流れると、目を見開いて音楽を感じているようだった。</li> <li>・「握る」という動作をすると、時差なく、すぐに音楽が流れたことで、握って開いて、握って開いてという動作が繰り返しできるようになってきた。</li> </ul> </li> <li>○アプリ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・握っている間だけ好きな音楽が鳴る設定にした。</li> </ul> </li> <li>○今後の取り組みについて               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は握っている間好きな音楽が流れるという活動をしたが、今後は握ると視覚的に何かが現れるというような別の方法も行って見て、握るという行為を強化していきたいと考えている。</li> </ul> </li> </ul>		

